

世界遺産アカデミー認定講師 File No.12

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓蒙活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第12回は、長年イギリスで観光ガイドとして活躍され、帰国後に世界遺産検定マイスターを取得し、現在は専門学校や自治体などで様々なガイダンスをご担当されている、世界遺産アカデミー賛助会員の鈴木真紀(すずき・まき)さんです。

——世界遺産条約誕生と運命的な転機

世界遺産条約が誕生した翌年の1973年当時、高校2年生だった私は、ガールスカウトで夏休みの1カ月間をヨーロッパで過ごしました。1964年に海外渡航が自由化され、海外への関心が高まっていた時代です。成人式の振袖のために両親が貯蓄していたお金を、1カ月の海外滞在費に充てるか振袖を買うかの選択を迫られた時、私はふたつ返事で海外を選び、将来の仕事も海外旅行に関わるものになろうと決意しました。世界遺産条約の誕生と自分の人生の転機が同じであったことには、今では運命を感じています。

生まれ育った故郷・神戸には様々な外国人が居留し

毎日でした。長年勤めてきた観光ガイドは、英国国内でのみ通用する資格です。添乗員や外国人向けの観光ガイドも考えましたが、体力面で自信がなく、身の振り方に悩む毎日でした。幸い、2010年春に主人の母校である獨協大学から国際人をテーマとした講演依頼があり、続いて、母校の神戸海星女子学院大学から、2011年4月から1年間限定で講師の話が来ました。東京の家族と離れて生活することになりますが、神戸行きを決意しました。獨協大学での講演経験から、後進を育成する大切さとやりがい意識し始めていたからです。世界遺産検定に出逢ったのは、そんな時期のこと。講師として勤務していた大学で、団体受検の動きかけがありました。2011年12月実施の「第10回

ていて、2、3軒先にはインド人家族が暮らし、実家の裏は領事館でした。中学から大学まで10年間を過ごした神戸海星女子学院はミッションスクールだったので、留学生や帰国子女の学生が多く在籍していて刺激を受けました。大学卒業後すぐにロンドンに旅立ち、添乗員や観光ガイドの仕事に就いたのも、異文化への関心が高かったからです。

——世界遺産検定との出逢い

神戸からロンドンに旅立って23年経ち2008年に帰国した当初は、浦島太郎のような状態で、さらに初めての東京での生活は逆カルチャーショックの

検定」を目指すにあたり、他の先生方も誘っていただきましたが、私ひとりのみ受検することになりました。学生たちには私がこの年齢で新しい試験を受けることから何かを学んでほしいと伝え、学生たちのうち十数名が3級、数名が2級を受検し、私は2級を受検しました。無事に2級に合格し、2012年7月には1級、9月の認定講師研修にも参加し、2012年の12月にマイスターに合格しました。

もともと勉強は好きですね(笑)。英国の観光ガイドには、各観光名所の知識だけでなく、国立美術館や大英博物館に展示物されている諸外国すべての歴史や西洋美術史といった幅広い知識が求められます。Endorsement”という付加資格もあって、ずっ

プールの海商都市」などの経済大国の危機遺産は、「ドレスデン・エルベ渓谷」のように除名すべきだと思います。先進国の世界遺産が、経済開発を理由に危機遺産となるなんて、恥ずかしい。本当に対応していく必要があるのは、地球温暖化の影響や宗教対立、紛争による危機遺産です。一瞬で崩壊してしまうものが、世界中に981件も登録されている。壊そうとする人を減らし、壊そうとしない人を育てなければ、未来に繋げられません。

また、「武家の古都・鎌倉」は不登録となりましたが、鎌倉には鎌倉の価値があります。世界遺産や国宝や重要文化財でなくとも、自分の近所の神社や小さな礼拝堂にも、誰かにとっての大切な価値があります。誰かが大切



「世界遺産検定をロンドンで開催したい。そうになったら、私が現地ガイドを務めます」と鈴木さん

と受検し続けていました。例えば、履歴書に「British Museum Certification」と記載が許される資格ですとか、また、カンタベリー大聖堂の聖堂内部のガイドを許される資格は、日本人では私が最初に取得しました。

に想っているものを、自分も大切に想う。そういう“心ごと”伝えていきたい。いつか、世界遺産のあるべき姿、あり方を伝えていけるような本を私自身が出版し、世界遺産を通しての人の命の大切さ、その唯一の価値を世界に発信していくことを生涯続けていきたいと思っています。

英国で観光ガイド資格を取得した時、私はイギリス人も含めて最高得点で合格し、“The Guide of the Year”を授与され、人生の中で最大の「ナンバーワン」を実現させました。これからは「ナンバーワン」になれなくとも、添乗員や海外のガイド、大学の講師のキャリアを活かした「オンリーワン」の認定講師を目指しています。常に私をサポートし続けてくれた主人と家族には、いつも心から深く感謝しています。

——平和とは、人の命の大切さとは

アフガニスタン・イスラム共和国の文化遺産『パルミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群』は、2001年にタリバン政権の侵略により甚大な損傷を受け、危機遺産となっています。宗教に絡んで創造されたものは、己が信じる神からの啓示なのだと思て造ることへの原動力に敬服します。けれど、自分と他者の信じる神が異なる時に破壊してしまう。人類は過去から学ぶことができるのに、21世紀に入って、さらに紛争が勃発する酷い世界になっています。「平和のとおり」を謳うユネスコ理念は、こうした時代における、最も良い処方箋なのではないでしょうか。一方で、「リヴァ